

新居浜市史

平成27年2月21日(土)10:00~11:30

別子銅山記念図書館 専門員 坪井利一郎

1. はじめに

新しい新居浜市史が刊行された昭和55年当時は、別子銅山に関する研究も不十分で、その多くは別子開坑二百五十年史話を底本としていた。現時点で読み返すと別子銅山の歴史の記述に誤りが多々あるので注釈を要する。新居浜市史を希望者に配布するにあたり、別子銅山に関する記述についてわかる範囲で誤った部分に注釈を加える。

2. 第四編 産業、経済

第一章	別子銅山開坑当時の新居浜	P. 579~
第二章	別子銅山開坑	P. 584~
第三章	別子銅山の発展	P. 586~
第四章	住友の「家」制度と雇員	P. 591~
第五章	住友の土地拡大と農民	P. 595~
第六章	別子銅山の公害	P. 599~
第七章	新居浜地方の農業と農民生活	P. 613~
第八章	新居浜地方における産業構造の変貌	P. 613~
第九小	工業都市の形成と住民	P. 615~
第十章	財閥解体と住友グループ	P. 618~
第十一章	高度経済成長下における新居浜地方の産業構造	P. 629~
第十二章	今の新居浜産業	P. 630~

3. 第四編を読んで間違っている箇所

第一章 別子銅山開坑当時の新居浜

P579 別子銅山開坑当時の新居浜

「別子銅山開坑当時の新居浜」と第一章を立てているが、書き始めの描写は天保13年(1842)刊行の西條誌によると考えられるので、別子開坑の元禄4年(1691)から152年が経過している。新居浜口屋を開設した元禄15年(1702)から141年が経過している。

新居浜口屋の開設前後も漁村であった新居浜浦の様子に大きな変化はなかったと考えられるが、第一章の記述は、口屋開設から別子鉱山鉄道敷設の明治26年(1893)までの192年間に及ぶ。別子銅山稼働283年間の2/3に当たる。決して「開坑当時」ではない。

P579 **土手をあがり西に進み――更に進むと塩を焼く煙――。**

東須賀から口屋に向かう途中で製塩を記述しているが、川西地区での製塩の記録は名古屋製塩のみなので、名古屋は、東川河口の左岸、現在の惣開にある住友化学新居浜製造所の入り口の所あたりである。

P581 **嘉永年間に別子銅山の支配人であった清水惣右衛門が開拓した土地なので、土地の人は「惣開」と呼んだ。**

清水惣右衛門ではなく、清水総右衛門である。逓信省が郵便局名を惣開(総=惣)としてから惣開と書くようになったと言われている。住友化学歴史資料館の横に立っている碑は「總開之記」と刻まれている。

清水総右衛門が開拓した嘉永年間より90年前の宝暦14年(1764)以後の新居浜浦惣改帳の記録に「惣開」が出てくる。その「惣開」は、「西惣開」と「寄合新田の一部」である。

また、新居浜郷土史談69号に、「惣開の地名について」で、明治5年以後の土地制度で惣右衛門新田が公簿に680番地、681番地と出ている。そして、昭和2年に東惣開に編入されている。

新居浜浦惣改帳の記録を小字図で照合する。新居浜浦惣改帳の寄合新田と惣開面積15.722町が、小字図の寄合新田と惣開面積15.5町とほぼ同じである。惣開の地名は、惣村として「65年間にわたり寄合で開いた、総がかりで開いた」考えられるので、寄合新田と西惣開を併せて考えると意味合いも合致する。

新居浜浦惣改帳の記録は、

寛文3年～12年	寄合新田	1町6反7畝9歩	1.679町
寛文9年～享保12年	惣開畑	14町4畝9歩	14.049町
		合計	15.722町

小字図

寄合新田	8.6町
西惣開	6.9町
合計	15.5町

P581 **馬子が、のどをならし、「いこかやめよか銅山へ、ここはしあんのめがねはし。」**

立川中宿から南は仲持運搬の記述だから、牛車道の眼鏡橋の不朽橋は建設されていないので、この馬子歌は出来ていない。

P582 **標高1290メートルの銅山越え――。**

銅山越えは、標高1294m。

P582 **から松の若芽に――。**

落葉松は、伊庭貞の別子緑化事業で信州の八ヶ岳山麓から持ってきた樹木で、仲持運搬時代には生えていなかった。

P582 **銅山越を南へ急な坂道を降りると急に眼下に景観がひらけ――。**

銅山越えから船窪の土俵跡を右に見て進むと、急坂を下りようとするところから

眼下に別子の銅山町(旧別子)が見える。

P582 **客谷川と――。**

客田川は船木を流れる川で、足谷川が正しい。

P583 **以上、別子銅山初期の――。**

別子銅山の稼働としては、時間的には2/3を経過しているが、技術史的にみると近代化としては「初期」にあたる。

P584 **立川合併によって、「口屋」への最短運搬路が確保された。**

泉屋道の開設は、元禄15年、開通は元禄16年。

元禄 4年(1691) 別子開坑で、天満道(第一泉屋道)

元禄 7年(1694) 天満道と新居浜道の駄賃比較 105貫500目と49貫200目

元禄 8年(1695) 新居浜道を西条藩に出願するが、境界争いで沙汰なし

元禄14年(1701) 再度新居浜道を西條藩に出願。立川銅山とは違う新道で内諾
かうとう谷と赤太郎の尾越え・種子川山村・新須賀村ルートは
出願だけで終わる(第二泉屋道)

元禄15年(1702) 新居浜道の開設、永代請負等について幕府の許可回答
口屋開設(第三泉屋道)

元禄16年(1703) 新居浜道開通

元禄17年(1704) 幕府領と西條藩領の知行替え

元禄18年(1705) 住友新道に立川銅山仲持が通行するとの訴状

【参考文献】 住友の歴史(上) 住友史料館 思文閣出版

立川銅山中宿の位置

千葉誉好編の「新居郡・宇摩郡 天領二十九箇村明細帳―土居大庄屋加地家文書」の立川村の項に「泉屋吉左衛門中宿一軒御座候。尤も、京割符仲ケ間中宿も一軒御座候。」と立川村内に立川銅山中宿と別子銅山中宿があることが記されている。

種子川村の項に「御年貢米は、立川山村両銅山師中宿へ、一里半歩行出しかまつり、相渡し申し候。」と種子川村から立川銅山中宿と別子銅山中宿へ一里半と同距離が記されている。渡瀬の別子銅山中宿の近くに立川銅山中宿があることが分かる。

第二次泉屋道は使われなかった

別子鉱山史(上巻)62ページの「立川山村道の開設」に、「前年(元禄14年)の出願に若干変更を加えて、立川山村を經由して新居浜浦に出る新道が開設された。翌々年宝永元年(元禄だと元禄17年に該当)12月別子銅山支配人から銅山役人へあてた一札に、立川銅山の道筋は長尾石ケ休場より西裏へ通り来たので、別子銅山への通路としては『石ケ休場より東裏へ新道を作り』と述べ、しかるに立川仲持ちは『此の方より作り申新道せり割の上、橋際までの内を通路』とする。」と、長尾の尾根の西側に立川銅山道があり、東側に別子銅山道があることが分かる。ただ、別子銅山開坑二百五十年史話は石ケ休場を石ケ山丈として雲ヶ原越えの道を写真入りで紹介

している。最初から長尾石ケ休場の「長尾」を削除している。別子鉱山史も長尾石ケ休場としていながら、別子銅山開坑二百五十年史話を引き継いで長尾の尾根を石ケ山丈のある錦繡峰に間違えている。長尾は三の森、二の森、一の森、遠登志の尾根である。

「石ケ休場」は清滝の上の須領道にあるように、山道の休憩所である。一般名詞であり固有名詞ではない。**地名**+**石ケ休場** で地図表記する。長尾石ケ休み場の地名は残っていないが、長尾には、せり割があるので「大休み」あたりであろう。大休み自体が長尾石ケ休場の跡を継承したのかもしれない。せり割のすぐ下にベンチ状の石積みがある。

立川仲持はどこを**通**って新道へ

立川仲持は『此の方より作り申新道せり割の上、橋際までの内を通路』とする。」とは、東平では「きり畑」耕作（焼畑）をしていたとあるから、東平小学校跡の「とう」の峠から東斜面の地すべり地帯は緩傾斜地であり、現在のペルトンのトラスト橋までは焼畑がされていて、その耕作道を下りたと考えられる。

第二章 別子銅山開坑

第三章 別子銅山の発展

P586 **銅吹所にてさらに精銅、丁銅に製錬し、大阪の幕府銅座に納め、幕府はこれを長崎に廻送し、――。**

銅吹所にてさらに精銅、丁銅、丸銅、棹銅などに製錬し、棹銅は大阪の幕府銅座に納め、幕府はこれを長崎に廻送し、――。

銅座は輸出用銅、国内売り銅も管理した。

第四章 住友の「家」制度と雇員

第五章 住友の土地拡大と農民

第六章 別子銅山の公害

P599 **ほぼ東西に1600mの長さで露出している。**

露頭線は1500m～1800mと言われて生きたが、1500m表記で定着。

第七章 新居浜地方の農業と農民生活

第八章 新居浜地方における産業構造の変貌

第九章 工業都市の形成と住民

P615 **鉱業的生命は10数年の後には尽きん――。**

17年で尽きる。

第十章 財閥解体と住友グループ

第十一章 高度経済成長下における新居浜地方の産業構造

第十二章 今の新居浜産業

4. 第十編 別子銅山開坑と住友の諸会社

第一章	別子銅山に関する文献	P. 1201～
第二章	労使関係及び労働問題	P. 1205～
第三章	昭和初期における東新地方振興会の動き	P. 1239～
第四章	別子銅山の近代化	P. 1241～
第五章	鉱量調査発表と鉱山の終末経営	P. 1247～
第六章	別子銅山閉山とその後の動	P. 1261～

5. 第十編を読んで間違っている箇所

第一章	別子銅山に関する文献
第二章	労使関係及び労働問題

P583 **282年間の長期に亘る経営の歴史――。**

元禄4年(1691)閏8月1日開坑、昭和48年(1973)3月31日閉山。

年から年だと283年間。

実稼働は281年11月。

第三章 昭和初期における東新地方振興会の動き

P1239 **今後15年にして鉱量が尽きる――。**

調査結果は17年。逆断層があつて鉱量を過小評価する。実際は逆断層の下にまだ鉱石はあつた。

P1240 **10日間大阪に滞在して、新居浜における住友企業の積極政策への転換を要望した。――。**

要望に対して、小倉総理事から約束を得る。(郷土研究169号)

第四章 別子銅山の近代化

P1242 **ラロックは1年余りの滞在期間中に①銅山峰の南北をつなぐトンネルを作り――。**

滞在し「別子鉱山目論見書」を著したのは1年10ヶ月。

「銅山峰の南北をつなぐトンネルを作り」は、約1000mと長さの類似等から方角を間違えた塩野門之助の誤訳で、後の第一通洞ではない。ラロックは旧別子から中七番への運搬トンネルの掘削を提案している。

P1244 **機関車作は、ドイツミュヘン州――。**

ドイツ・バイエルン州・ミュヘン市。

第五章 鉱量調査発表と鉱山の終末経営

第六章 別子銅山閉山とその後の動

P1263 **282年間、総出鉱量3000万トン、銅量にして72万トン――。**

283年間、総出鉱量3000万トン、銅量にして65万トン――。

第七章 四阪島製錬所の精錬中止と現状

P1267 **大正13年(1924)に築造された高さ64mの大煙突がぼつんと、当時の盛業を物語っている。**

煙突の高さは64.2m。平成25年(2013)5月～7月に解体された。

6. 第七編 民俗 での間違い

第四章 別子銅山大鉞祭 P. 1095～

P1095 **別子銅山では大山祇の神の御分霊を勧請して、足谷の山中へ齋き祀ったのは、実に開坑許可直後の元禄4年(1691)6月のことであると伝えられている。**

元禄7年(1694)の大火災の後に勧請された。

P1099 別子銅山大鉞の歌

- | | | | | | |
|-------------------|---------|----|----|----|----|
| 1. 今一の旦那さんよ末代 | はーりやエー | ヨエ | ヨエ | ヨエ | ヨー |
| エーエー末一代い御座りや | 鉞ーにやエー | ヨエ | ヨエ | ヨエ | ヨー |
| エーエー歩がー増すウー人ー | がー増すー | ヨエ | ヨエ | ヨエ | ヨー |
| 歩がー増すヨー歩がー増す | はーりやエー | ヨエ | ヨエ | ヨエ | ヨー |
| エー歩がー増すーウ鉞ーに | 鉞ーにー | ヨエ | ヨエ | ヨエ | ヨー |
| エー歩が増すー人ー | が増すー | ヨエ | ヨエ | ヨエ | ヨー |
| | | | | | |
| 2. 飲めよー大黒ヨー歌へよ | はーりやエー | ヨエ | ヨエ | ヨエ | ヨー |
| エーエー歌ーへよー戎ー子 | 間でヨエー | ヨエ | ヨエ | ヨー | |
| エーエー酌ー取ーれーエー福 | の神ー | ヨエ | ヨエ | ヨエ | ヨー |
| 酌ー取れーヨー酌ーウ取れ | はーりゃヨエー | ヨエ | ヨエ | ヨエ | ヨー |
| エー酌ー取れー間ーでー | 間でヨエー | ヨエ | ヨエ | ヨエ | ヨー |
| エー酌ー取れーエー福 | の神ー | ヨエ | ヨエ | ヨエ | ヨー |
| | | | | | |
| 3. 明けて目出一たいーヨー始まる | はーりやエー | ヨエ | ヨエ | ヨエ | ヨー |
| エーエー始じーまるー歳ーは | 金場エー | ヨエ | ヨエ | ヨー | |
| エーエー大ー鉞ーウー富士 | の山ー | ヨエ | ヨエ | ヨエ | ヨー |
| 大ー鉞ヨー大ー鉞ー | はーりやエー | ヨエ | ヨエ | ヨエ | ヨー |
| エー大ー鉞ーウー金場 | 金場ー | ヨエ | ヨエ | ヨエ | ヨー |
| エー大ー鉞ーウー富士 | の山ー | ヨエ | ヨエ | ヨエ | ヨー |
| | | | | | |
| 4. 歳一の始めーにヨー始まる | はーりやエー | ヨエ | ヨエ | ヨエ | ヨー |
| エーエー始ーまる月ーは | 鉞ーのエー | ヨエ | ヨエ | ヨー | |

エーエー買ーぞーめー蔵	開ーきー	ヨエ	ヨエ	ヨエ	ヨー
買ーぞめーヨー買ーぞめ	はーりやエー	ヨエ	ヨエ	ヨエ	ヨー
エー買初ーめー鉑ウーの	鉑のー	ヨエ	ヨエ	ヨエ	ヨー
エー買初ーめエー蔵	開き	ヨエ	ヨエ	ヨエ	ヨー

5. 旦那さんの一盃よ山留

エーエー山ー留ーエーじゆうへ	はーりやエー	ヨエ	ヨエ	ヨエ	ヨー
エーエー戴ーくー大ーば	貰てエー	ヨエ	ヨエ	ヨー	
戴くうヨー戴くー	くーの会ー	ヨエ	ヨエ	ヨエ	ヨー
エー戴くウー貰ウーて	はーりやエー	ヨエ	ヨエ	ヨエ	ヨー
エー戴くウー大ーば	貰てー	ヨエ	ヨエ	ヨエ	ヨー
	くーの会ー	ヨエ	ヨエ	ヨエ	ヨー

明治45年の大鉑の歌

1. 今ーの旦那さんーヨーヲー末代ー	ハーリャヨー	エー	ヨー
エー末代イーござりヤー	鉑にヤーヨー	エー	ヨー
エー歩がますーひーと	がーますヨー	エー	ヨー
歩がますヨーヲー歩がます	ハーリャヨー	エー	ヨー
エー歩がますーはくーに	鉑ニヤーヨー	エー	ヨー
エー歩がますーひーと	がーますヨー	エー	ヨー
2. のめーよだいこくーヨーヲーうたへよー	ハーリャヨー	エー	ヨー
エーうたへよーえびすー	あいでヤーヨー	エー	ヨー
エーしゃくとるーふーく	のかみヨー	エー	ヨー
しゃくとるヨーヲーふくのかみ	ハーリャヨー	エー	ヨー
エーしゃくとるーあいーで	あいでヤーヨー	エー	ヨー
エーしゃくとるーふーく	のかみヨー	エー	ヨー
3. としーのはじめにーヨーヲーはじまるー	ハーリャヨー	エー	ヨー
エーはじまるーつきはー	かなばヤーヨー	エー	ヨー
エーおほばくーふーじ	のやまヨー	エー	ヨー
おおばくヨーヲーふじのやま	ハーリャヨー	エー	ヨー
エーおおばくーかなーば	かなばヤーヨー	エー	ヨー
エーおほばくーふーじ	のやまヨー	エー	ヨー
4. あけーてめでたいーヨーヲーめでたいー	ハーリャヨー	エー	ヨー
エーはじまるーとしはー	鉑のヤーヨー	エー	ヨー

エーかいぞめーくーらー	びらきヨー	エーーー	ヨー
かいぞめヨーラーくらびらき	ハーリャヨー	エーーー	ヨー
エーかいぞめーはくーの	鉋のヤーヨー	エーーー	ヨー
エーかいぞめーくーら	びらきヨー	エーーー	ヨー

5. だんーなのさかずきーヨーラーやまどめー ハーリャヨー エーーー ヨー

エーやまどめーしゅうへー もろふてヤーヨー エーーー ヨー

エーいただくー大ーばー く酔^{えい}ヤーヨー エーーー ヨー

いただくヨーラー大ばく ハーリャヨー エーーー ヨー

エーいただくーもろーふて もろふてヤーヨー エーーー ヨー

エーいただくー大ーば く酔^{えい}ヨー エーーー ヨー

明治45年の大鉋の歌との違い

	今	明治
囃子	はーりゃヨエー ヨエ ヨエ ヨエ ヨー	はーりゃヨー エーーー ヨー (はじめるよ) (えーよ) (「始めるよ。いいよ。」の応答が分からなくなっている。) ヨエー ヨエ ヨエ ヨエ ヨー ヨー エーーー ヨー (ヨー エーがくっついてヨエとなる)
3番	明けて目出たい始まる歳は	歳の始めに始まる月は
4番	歳のはじめに始まる月は	明けて目出たい始まる歳は (3番4番の前段が入れ換わっている)
5番の歌詞	山留じゅうへ (一ー中へ) 大鉋の会 (昭和17年の歌詞は、大鉋の絵) (昭和32年角野町役場観光課の小冊子「別子ライン」は、大鉋の倉)	山留しゅうへ (一ー衆へ) 大鉋酔 ^{えい}

さいたま市指定無形文化財の木遣歌の始まりの掛け声

木遣師「ヨーオンヤリヨー」 (やるよー)

側受^{かお}「エエーヨー」 (いいよー)

明治45年の大鉋歌のお囃子

「はーりゃヨー」

「エーーー ヨー」 (えーよ)

新居浜市史と別子山村史

○新居浜市史(昭和55年3月31日刊行)は、現在歌われている「大鉋の会」。

○別子山村史(昭和56年1月25日刊行)は、明治45年式。一番の歌詞が欠落。